

—若手技術者のコーナー—

女子ツアーに参加して

1. はじめに

札幌市は人口200万人程の都市にも関わらず、大きな公園がいくつもあり、土地や道路の幅員も広く、過ごしやすい気候であり、食べ物も美味しく、とても魅力的な街である。大学卒業後はこの魅力的な札幌市に住み、自ら街づくりに関わりたいと思い入庁し、建設局土木部工事課に配属され、3年が経った。今回は私の業務の紹介と、今年私が携わった「建設業人材確保・育成支援事業」の一環として開催している「女子ツアー」を通して思ったことをお伝えしたい。

2. 工事課での業務

工事課の業務は、土木工事の設計や施工管理を行うものである。工事の施工にあたっては複数の関係機関と調整を行わなければならないことや、着工後に不測の事態が発生し、思い通りに進まないことがあり、1つの工事を完了させる中で悩むことも多々ある。しかし、それらを解決し最終的に完成した姿を間近で見ることができて達成感を感じられ、利用される市民の方を見ると頑張った良かったと思える。

3. 女子ツアーについて

札幌市では建設業のPR事業として、小学生の子供と親を対象にした「親子ツアー」、土木学科の高校生や大学生の女子を対象とした「女子ツアー」等を行っている。今年私は女子ツアーに主に関わることとなった。女子ツアーは建設業に入職する女性の増加を図ることを目的として開催され、現場の見学とお茶会を行う。お茶会では学生が建設会社の女性技術者に話を聞いたり質問をすることができる。その中で印象的だったのは、土木学科出身ではないがICTに興味があり建設会社で現場の仕事をしている方や、子供がいながら現場で働いている女性技術者がいたことだ。建設現場での人手不足が問題となっている中で、土木工学が専門ではない方も土木業界に関わるができることや、建設現場でも女性技術者が働きやすいような環境になってきていることを知ってもらうことはとても重要なことだと思う。私は学生の時には建設現場は男性ではないと環境的

に厳しいものだと思っており、女性にとって追い風が吹いているものとは知らなかった。土木業界はインフラの整備をはじめ、人々の生活に欠かせないものであり、やりがいや魅力は十分にあると思うので、土木学科の学生に限らず、多くの方に土木の仕事について知ってもらいたいと思った。

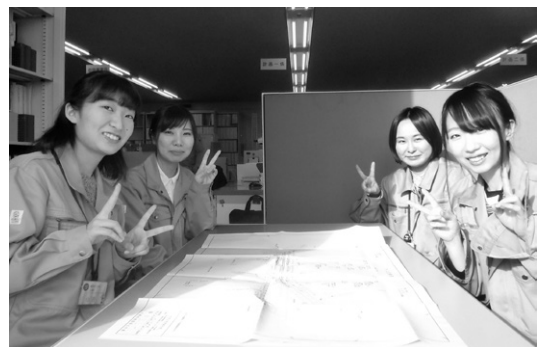


「女子ツアー」お茶会の様子

4. おわりに

女子ツアーに関わることとなり、学生や民間の方々とお話することができて励みになったこと他にも、日常の仕事では関わるすることがない方々と情報交換をすることができて、その点でも携わることができて良かったと思った。

入庁してからあっという間に3年目となったが、経験と知識の足りなさを日々痛感している。勉強して知識を蓄え、積極的に様々なことを経験して行き、更に魅力的な札幌市の街づくりに貢献できるようになりたい。その一方で、土木職の魅力を発信していくことに関わって行きたいと思う。



工事課でのひと時（筆者は手前右）

（札幌市 建設局 土木部 工事課 五十嵐 真美）